

【算数・小1・たしざん】①

育成を目指す資質・能力

- (知識・技能) 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が「10といくつ」という数の見方を基にしてできることを理解し、その計算方法を身に付ける。
- (思・判・表) 10のまとまりに着目し、1位数どうしの加法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現する。
- (学びに向かう力等) 1位数どうしの加法計算の仕方について「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさを生活や学習に活用しようとする。

ICT活用のポイント

画面上のブロックを操作したり考えを書き込んだりしながら、「10のまとまり」に着目して加数分解・被加数分解の方法を理解する。

【つかむ】

繰り上がりのある計算に関心をもち、
学習の見通しをもつ

【個で追究する】

ブロックの操作活動を通して
計算の仕方を考える

【ペア、全体で共有する】

ブロックを操作した図と書き込んだ説明を
見せながら自分の考えを説明し合う

【まとめる】

「10のまとまり」の作り方を全体で確かめながらまとめ、適用問題に取り組む

事例の概要

学習支援ソフトに上げられたホワイトボードに貼り付けたブロック図や穴あき説明文を使って自分の考えを表現する

【事例におけるICT活用の場面①】

- ・1枚目のシートには、1段目に実物のブロックを置いた写真、2段目に操作できるブロック図、3段目に式を用意し、操作したり計算の仕方を書き込んだりしながら考える。
- ・2枚目のシートには、計算の仕方を説明する穴あき文を用意し、自分が考えた計算方法に当てはまる数字を書き込んで説明を完成させ、自分で声に出して読むことで理解を定着させる。

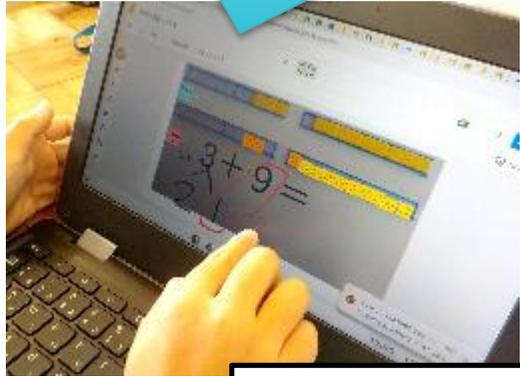
【事例におけるICT活用の場面②】

- ・自分の考えを記入したシートを見せながら説明し合う。
- ・複数の考え方を取り上げ、全体共有する。

【算数・小1・たしざん】②

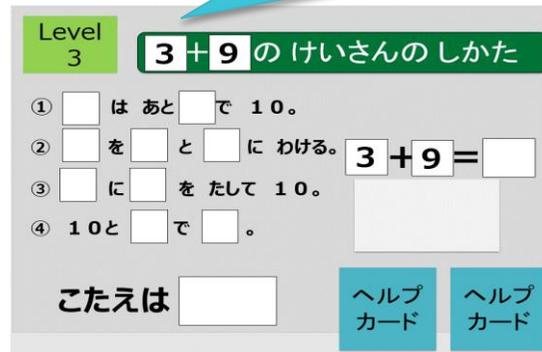
【事例におけるICT活用の場面①】

画面上のブロックを操作して、どのように「10のまとまり」をつくるか個別に試行し、操作したことをさくらんぼ図を用いて表現する。



1枚目のシート

自分が考えた計算方法に合う数字を□に入れて穴あき文を完成させ、説明の仕方を練習する。



2枚目のシート

- 個別に追究する場面で学習支援ソフトを活用し、ホワイトボード上の動かせるブロック図を用いることで、実際に操作しながら考えることができる。
- 加数と被加数の色を変えて提示することで、どちらの数を分解して10を合成したのかが視覚的に分かる。
- 児童は操作したブロックが画面上に残っているため、ブロック図の下に式を書くことで、ブロック操作の結果と式を関連付けて表現することができる。
- 教師は自分のICT端末で全体の児童の取組の様子を確認することができる。

【事例におけるICT活用の場面②】

【活用したソフトや機能】

- 学習支援ソフト
- デジタルホワイトボード



個別に追究した解決方法について、自分の画面を見せながら説明し合う。

- 自分の画面を見せ、指でブロックや式を指しながら説明させることで、分かりやすく説明することができる。
- 加数と被加数の色を変えてあるので、友達がどちらの数を分解して10を合成したのかが視覚的に分かり、お互いの考え方の共通点や相違点に気付くことができる。
- 全体共有では、加数分解・被加数分解両方の考え方を取り上げ説明し合うことで、児童の思考を深めることができる。